

峰のひかり

発行人
社会福祉法人 七峰会
理事長 奥田 稔

〒036-8356
青森県弘前市大字下白銀町 21-8
電話 (0172)33-8861
FAX (0172)33-8862

特別養護老人ホーム サンアップルグループ

常食への取り組み



常食摂取
23.7.25



経管栄養
(胃ろう)
23.6.14

食べる事で表情も豊かになります。がんばったね。とめさん!!

サンアップルホームは、利用者の皆さんに「食べる楽しみ/美味しい」の提供と、食べる事によって「低栄養を改善・予防し、生活機能の維持と向上」に努めてきました。

平成22年の春より、全員の口腔嚥下アセスメントを行い、義歯が無い、合わない方については、治療をすることにしました。同年の夏、これまでのミキサー食や、増粘剤を使用する形態をやめ、一年前から試作してきた嚥下食の提供を開始しました。嚥下食が変わってからは、色・味もよくなり、食感も楽しめることから、美味しく楽しく食事を摂る事ができ、ほとんど残食も無くなりました。

そのような取り組みが行われている中、平成23年1月「おむつゼロ特養連絡会」の特別顧問で、国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授より「胃ろうも含めて全員常食に戻す。」とお話がありました。この時、サンアップルホームでは5割の方が刻み食や嚥下食であり、経管栄養は1割でした。食事形態については、嚥下機能の低下やムセがあるためであり、その方に常食を提供するという事は、想像もつかない取り組みでした。竹内先生は、老人保健施設での

事例を紹介し、口腔機能について説明したうえで、「特養でもやってみましょう。」と、全国でおむつゼロになった特養からサンアップルホームなど5施設が選ばれ取り組むことになりました。

すでに全員の口腔嚥下アセスメントと義歯の治療は行われていたので、経管栄養以外の方で、移行がし易い方を選び、常食と、お粥の方は軟飯(やわらかめのご飯)にしました。その結果は、咀嚼の回数が増え食事時間が少し長くなりましたが、1、2ヶ月の早い段階で刻み食と嚥下食が常食に達成しました。次に、常食が難しいと思われる方については、どうすれば移行できるかを話し合い「水分、栄養、排泄、運動」をもう一度見直し、平成23年3月には経管栄養者以外全員が常食に達成しています。経管栄養者についても、常食に向けての取り組みが、4月からスタートし、現在も進行中です。

常食を食べることの利点は、外出や外泊先で、刻んだり、ペーストにしたりしなくてもよくなり、ご家族と同じ物が食べられるようになります。また、噛むことで唾液の分泌が良くなり、脳が活性化され、活動性が高まります。

サンアップルホームでは、一人ひとりが持っている力を引き出し、高齢だから仕方がないと諦めずに自立支援を行っていきたいと考えています。

拓心館グループ
「はまなす学園」
被災地派遣

県福祉協会から、3月11日の東日本大震災で甚大な被害にあった、岩手県山田町にある『はまなす学園』に対する職員派遣要請がありました。派遣要請人員は、1チーム6人（看護職員1名、支援員5名）で、西地区からは6月23日から6月30日の8日間、派遣職員メンバーは拓心館グループから3名、『拓光園』から1名、『月見野園』から1名、『もみじ学園』から1名でした。

支援内容は、仮設トイレ・ポータブルトイレの洗浄、水汲み、居室の清掃、食事の準備、残飯処理、歯磨き・洗顔の支援、エプロンの洗濯など、主に後方支援活動を行いました。

知的障害者更生施設『はまなす学園』は津波により全壊し、震災直後は入浴の時間帯で、職員の指示で一部の利用者は、裸のまま車に乗り込み裏山の高台に急ぎ、誰一人として利用者の犠牲を出すことなく全員無事だったそうです。

山田町の被災状況を実際に目のあたりになると、瓦礫の山、堤防が破壊され、海沿いに広がる街並みはほ



とんど津波で海に流されている状態で、津波の脅威、恐ろしさを物語っていました。

現在は、『旧陸中海岸ホテル』で利用者の皆さんが生活しています。現在の住環境はガスが使えない、雨漏り、水道を使える場所が2か所のみと問題が多いため、7月15日頃より、同町に建設されたグループホーム型の仮設住宅へ引越すことが決まっています。

被災された利用者の方、職員の方の胸のうちの苦しさ、悲しさは、実際に接し話を聞くと計り知れないも

のがあります。同じ東北人として、福祉に携わる仲間として、一時的な支援だけではなく、利用者の方が何不自由なく暮らせるようになるまで、継続的な支援が必要だと感じました。

障害者支援施設 山郷館グループ
「東日本大震災派遣報告」

4月14日から20日までの一週間、青森県からの要請で介護職員等派遣隊として、岩手県大船渡市の社会福祉法人大洋会の「慈愛福祉学園デイサービスセンター」で活動してきました。

幸いなことにセンターの建物自体には大きな被害はありませんでしたが、市内の中心地はあたり一面がれきの山で、街並みは消えており、想像を絶する光景でした。

施設を利用されている方達は一見、元気に過ごしているようでしたが、津波の恐怖、肉親や家をなくした悲しみを心の奥に隠しており、話をしていくうちに少しずつそれを明かしてくれながら、泣きだす方もいました。実際に被災地に足を運んでも私達にできることは限られており、自分の無力さを感じることもありました。現地の職員の方に、

「遠くから私達のために応援に来てくれているということがとても嬉しいので、話し相手になってもらっていることは、いい気分転換になっていますよ。」という言葉に救われる思いでした。帰り際に利用者の方に、「頑張って復興させるので今度は遊びに来て下さい。」と言われたことも印象的でした。

今回の震災は決して他人事ではなく、私達の住む地域での震災時における防災体制を見直す機会になったと思います。被災地では現在も多くの方が過酷な生活を強いられているという決して忘れず、無駄のない生活を送ることが、私達にできる被災者支援の一つだと思います。



夏の楽しい思い出作り

障害者支援施設 旭光園 グループ

『拓光園』では利用者の皆さんと家族の方々の交流を図るため、毎年家族旅行を園の行事として企画実行しています。従来入所利用者のための行事だったのですが、昨年からは在宅支援の事業所でも行われるようになりました。

今年入所利用者の旅行は6月28日と9月2日に分けて青森に新しくできた文化観光交流施設『ワ・ラッセ』と『Aファクトリー』を中心にした市内を巡るコースに設定しました。在宅支援の利用者は、夏休み期間中の8月7日小岩井農場や盛岡市内に出掛けてきました。

6月28日の青森コースには、47名の利用者の皆さんと21名の家族の方々が参加。天候に恵まれ、久しぶりに会った家族の方々とバスの旅を楽しむことができました。『ワ・ラッセ』では勇壮な青森ねぶたが何台も立ち並び、弘前ねぶたとの違いを目の当たりにした参加者の皆さんはますます感嘆しきりの様子でした。

8月7日に行われた在宅支援の事業所の家族旅行は22名の利用者の皆

さんと22名の家族の方々が参加、夏休みということもあり児童の参加が多く、広い小岩井農場の敷地で牛や羊と遊び、大きな歓声が響き渡りました。



「こんな機会でもなければなかなか一緒に旅行したりすることはできない。」と家族の方にも大好評。一年に一回だけの楽しみではあります。が、今後もずっと続けていきたいと考えています。

毎日、元気に頑張っています

身体障害者援産施設 旭光園

今日は箸の作業、明日は弱電作業と一挙に手掛けている利用者、Sさんの紹介をします。

Sさんは開設当初から利用して入り、今も現役で作業しています。入所時は利用者さんも少なく、作業科目も少なかったと話します。Sさんの作業は製袋作業の機械係りから始まり、2年後完封箸を作る大きな機械操作係りとして現在に至り、29年になりました。機械に紙をセット、印刷、箸、楊枝を入れた完封箸を作っています。これまでに機械に印刷の紙が絡まったり、うまくカットされなかったり、のりがつき過ぎて



機械がベトベトになる等、数え切れないほどの失敗があった様です。

「印刷ミス、不良品を出さない様に注意しながら行っても見逃してしまう事が度々あるが、やりがいのある作業であり、何より機械操作をしている時が一番充実している。」と目を輝かせて話してくれました。作業の段取りも手際よく行っています。

今年から、箸部門と弱電作業（近くの工場2社からの下請け作業）を一緒に行っていますが、細かい作業でピン差し、組み立て、検品、外装いれ、作業に使う材料の準備から、出来た製品の運搬まで一挙に引き受けています。肩が痛い、目が霞んで穴が見えにくくなったと話す利用者さんがある中で、全くその様な事はなく、作業仲間との会話を楽しんで作業を行っています。

大先輩のSさんの動きに作業仲間からの信頼も厚く、何よりどんな作業でも嫌と言わない、嫌な顔をしない、そんなSさんが作業場の雰囲気や和ませてくれています。

これからも健康に気をつけながら、作業を続けて行きたいと笑顔で話すSさんです。

障害者支援施設 山郷館くろいし

「地域生活を応援します」

地域で安心して生活する条件の一つに「住まいの場」の確保が挙げられます。

地域の実情を見てみますと、家族の高齢化や発病により同居生活が困難になっている家庭や、近い将来に不安を感じているという相談も増えてきています。こうした地域のニーズにこたえていく必要性から、平成21年春に障害者福祉ホーム『パレット』、平成22年秋には一体型グループホーム・ケアホーム『山郷館ライブ』を開設しました。

障害者福祉ホーム『パレット』は定員12名で、施設から地域での生活を希望する対象者や、バリアフリーの住宅が必要な対象者の方々が低額な家賃で利用できるホームです。ここで生活している方々は、ヘルパーサービスや様々な障害福祉サービスを利用しながら生活しています。

一方の一体型グループホーム・ケアホーム『山郷館ライブ』は介護を多く必要とする方や常時の見守りが必要な方でも利用しやすいように昼夜を通して援助者が配置



グループホーム・ケアホーム 『山郷館 角田住宅』



福祉ホーム 『山郷館 パレット』



グループホーム・ケアホーム 『山郷館 緑町住宅』



グループホーム・ケアホーム 『山郷館 ライブ』

されています。現在、黒石市内3つの住宅に13名が入居されており、職場に通ったり、障害福祉サービスを利用しながら生活しています。今年秋には、黒石市柵の木に4件のグループホーム・ケアホームをオープンします。多様なニーズにこたえていける選択できる住まいの場の提供を目指して、地域の方々のお力を借りながら全力で取り組んでいきます。

七峰会後援会施設訪問 見学研修のお知らせ

七峰会後援会の施設事業所見学会は、左記の通り今年も実施致します。今年度は、サンアップルホームのユニットケアと自立支援介護について見学し、併せて会員の交流を深めたいと計画しましたので、会員の皆様には多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

日時 平成23年9月16日(金) 見学施設 特別養護老人ホーム

サンアップルホーム

交流会 鯉ヶ沢温泉『ナクア白神ホテル&リゾート』にて食事会

交通 チャーターバス

出発 10時発

ホテルニューシティ弘前 中央玄関前

10時20分頃

弘前市役所正面玄関前

到着 14時40分頃着

弘前市役所前

15時頃

ホテルニューシティ弘前

*会員の皆様及び非会員の皆様の多数の参加お待ちしております。

【お問い合わせ】

七峰会本部事務局

0172-3318861

総合支援事業

- 青森県指定 津軽障害者就業生活支援センター ☎0244524
- 弘前市障害者就業生活支援センター ☎0124000
- 弘前市障害者生活支援センター ☎0124000
- 弘前市北部地域包括支援センター ☎0121000
- 黒石市委託事業 山郷館障害者支援センター黒石 ☎0150018

障害者支援事業

主に知的

- 障害者支援施設 拓光園 ☎0123331
- 施設入所支援 生活介護事業 拓光園生活介護事業所(通所型)
- 拓光園短期入所支援センター
- 拓光園障害児デイサービスセンター
- 拓光園日中一時支援事業所(2ヶ所)
- 拓光園共同生活介護事業所 ☎0145220
- 自立訓練事業(宿泊型)自立訓練(生活訓練)
- 津軽生活支援センター(共同生活介護援助はあと)(児童デイサービス)
- 就労サポート(0.5)就労移行(就労継続B型)事業
- 英才学園(就労訓練施設)
- エイブル(生活介護・就労継続支援B型)

主に身体

- 障害者支援施設 山郷館 ☎0122111
- 山郷館身体障害者(児)短期入所事業所
- 山郷館アイサービスセンター
- 山郷館アイサービスセンター弘前
- 山郷館アイサービスセンターくれよん
- 山郷館地域活動支援センターぐれよん
- 山郷館児童発達支援センターぐれよん
- 山郷館訪問介護センター黒石 ☎0150018
- 山郷館パレット(福祉ホーム)
- 山郷館くろいし ☎013070
- 津軽障害者支援施設 旭光園 ☎0151555
- 通所他障害者利用事業 旭光園身体障害者短期入所事業所
- 福祉ホームさわら

高齢者介護事業

- 特別養護老人ホーム
- サンアップルホーム ☎0121111
- サンアップル短期入所生活介護センター
- サンアップルホームデイサービスセンター
- サンアップルヘルパーセンター ☎013758
- 認知症グループホームアップル ☎012778
- 認知症デイサービスセンターじよい ☎012013
- 認知症デイサービスセンター ☎01165
- サポートセンターわかば ☎0121331
- 認知症グループホームわかば
- デイサービスセンターわかば
- サンアップル在宅介護支援センター ☎0121331
- 住宅型有料老人ホーム『わかば』 ☎018088

居宅介護支援事業

- 山郷館居宅介護支援センター ☎012941
- サンアップル居宅介護支援センター ☎0121331